教えてはちくん！木づかい通信
Vol.1　創刊号

テーマ

木の年輪は日当たりのよい南側が広いの？

～「山の中で迷ったら、年輪の広い方が南」説はウソだった？～

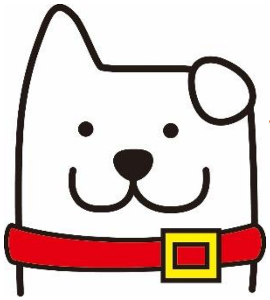
大館市観光キャラクター
「はちくん」
※チェンソーマンVer.

令和3年4月
産業部林政課

本資料は林知行　著「目からウロコの木のはなし（技報堂出版、2020年3月）」を引用し、作成しています。

テーマ「木の年輪は日当たりのよい南側が広いの？」

教えてはちくん！



科学的に「木の南側がよく育つ」という説は成立しません。
樹木では樹皮の内側にある形成層という薄い組織が細胞分裂して樹幹が年々太くなります。その際に使われる養分は、樹木の上部にある葉で光合成によって作られ、樹幹全体にらせん状や扇状に拡散しながらゆっくりと降りていきます。したがって、南側の葉で養分が沢山合成されても、樹幹の南側だけに集中するということにはなりません。

「目からウロコの木のはなし、P2～4」

検証してみた！

大館市内のスギ伐採跡地

スギの伐根（写真上方向を北、下方向を南に統一してます）

⇒年輪の幅に偏りが生じるのは、樹幹の傾き、土地の傾き、樹体の重心の偏り等々の理由が考えられます。
いずれにしても、「山の中で迷ったら木の伐根の年輪の広い方が南側だ」を信じると遭難してしまいますのでご注意を。

テーマ「木の年輪は日当たりのよい南側が広いの？」～資料編～

テーマ「木の年輪は日当たりのよい南側が広いの？」 ～資料編～

テーマ「木の年輪は日当たりのよい南側が広いの？」～資料編～

テーマ「木の年輪は日当たりのよい南側が広いの？」 ～資料編～

テーマ「木の年輪は日当たりのよい南側が広いの？」～資料編～

テーマ「木の年輪は日当たりのよい南側が広いの？」～資料編～